

議員として、監査委員として様々な提案を行いました！

5月をもって1年間の監査委員の任を終えました。この間に膨大な会計資料を読み込み、市役所各課、上下水道局、市民病院等に問題点を指摘して改善を求めることは大変でしたが、非常にやりがいのある仕事でした。また、議会でも出席するすべての委員会で必ず発言しています。例えばSDGsの観点から下水処理水の工業用水へ再利用の提案、万一のミサイル攻撃に備えて地下シェルター整備の提案、病児・病後児保育の拡充、夜間小児診療所の補助金増額、芦田川かわまち広場の使用料の減額、市役所の財務会計システムの更新など多岐にわたり提案しています。

G7広島サミット首脳に山野峡ワインが提供されました！



によるカレーの販売、地元農家が栽培した野菜を販売する「日曜朝市」が開催されています。ぜひドライブがてら山野峡にお越しください。

G7サミット初日(5月19日) グランドプリンスホテル広島において、各国首脳によるワーキングランチに「山野峡ワイン2021北天の雫」(白ワイン)、宮島の老舗旅館・岩惣におけるワーキングディナーに「山野峡ワイン2021富士の夢」(赤ワイン)が提供されました。

多くの方から賞賛の声をいただき感謝申し上げます。これは福山市と福山商工会議所の後押しのお陰であり、行政・経済界・議会のタイアップによる福山産ワインを世界にPRできたと感じています。

山野峡大田ワイナリーは地方創生の政策実験として始めた事業であり、山野峡ワインは私達夫婦の汗と涙の結晶とも言えます。基本的に日曜日のみ営業、ワイン販売の他に地元女性グループ

ウクライナ避難民による交流会を開催

サミットにはウクライナのゼレンスキー大統領も電撃訪問されましたが、昨年、福山市に避難している5家族9人の避難民がワイナリーに集まり、ぶどうの収穫とワインの仕込み体験を行いました。ウクライナもワインの産地であり、久しぶりに同郷の人々が集まってウクライナ語で語り合う姿を見ると本当に開催して良かったと感じました。この夏に皆さんにまた山野峡にお越しいただき、完成したワインをお渡しする予定です。早くウクライナに平和が戻ってほしいと心から感じた交流会でした。



NHK「万里の長城は戦場だった・遺骨が見つないだ日中の対話」に出演

86年前の昭和12年、日中戦争における万里の長城の戦いで戦死した歩兵第41連隊の兵士の遺骨の身元調査に協力し、鞆のご遺族と発掘した中国人戦史研究家のオンライン対話を実現しました。昨年「おはよう日本」にて全国放送され大きな反響を呼びました。過去の戦争の歴史の継承は現在の戦争の終息や未来の戦争の抑止に繋がるはずです。

お知らせ 活動報告は随時facebookや経済レポート「祐介の目」にて行っています。なお、本誌郵送不要の方はご一報ください。
 FAX:084-921-8801 メールマガ配信希望は orion@urban.ne.jp まで LINE ID:yuusuke.ota

水曜日

第60号
 令和5(2023)年4月発行

発行者 福山市議会 水曜会
 住所 〒720-8501
 福山市東桜町3番5号
 電話 084-928-1123
 FAX 084-920-1104



3月定例市議会

本会議では、令和5年度の一般会計予算案や、令和4年度一般会計補正予算案など、すべての議案を賛成多数で可決しました。

一般会計は、前年度当初比6.4%減の184.1億6千万円

市民生活に関連の深い一般会計は184.1億6千万円で、過去最大だった前年度当初と比べ6.4%減。なお、3月補正



福山市議会 水曜会

令和5年度 予算状況

	前年度比
一般会計 1,841億円余	△6.4%
特別会計 1,001億円余	4.0%
企業会計 778億円余	10.4%
合計 3,621億円余	△0.4%

重点政策として、子育て支援に総額12億2千万円

歳出では、重点政策と

の前倒し分を加えれば、実質的には過去最大です。新年度は「安心と成長を支える都市基盤づくり」の総仕上げの年であり、三之丸地区の再開発や福山北産業団地第2期事業などが完了し、まちの景色も大きく変わります。抜本的な浸水対策や市立小学校の耐震化も終わり、安心・安全な生活環境が整います。

令和5年度の主な新規事業・継続事業

○子育て支援	11億6,249万円
・医療費の補助	5,478万円
・保育支援者の雇い上げ経費補助	220万円
・保育士の復職支援	211万円
・発達支援センターのオンライン診療	234万円
○デジタル化の推進	250万円
・プロジェクト管理シールの活用	1,110万円
・地域デジタル化モデル創出	424万円
○医療・福祉	30万円
・看護学生支援金	1,110万円
・高齢者のゴミ出し支援モデル事業	424万円
・視覚障がい者向け電子図書導入	30万円
○文化・観光	3億2,637万円
・ばらのまちづくり推進	4,696万円
・福山城の魅力発信	554万円
・飲食店メニューの多言語化	7億7,344万円
○都市の魅力向上	3億3,442万円
・旧キャスバ跡地の再開発事業補助	3,266万円
・旧福山市体育館の解体撤去	3,080万円
・(仮称)まちづくり支援拠点施設整備	1,071万円
○周辺部対策	220万円
・(仮称)宮沢喜一記念館の整備	3,080万円
・農業法人の参入促進	1,071万円
・ニホンザルの生育状況調査	220万円
○環境	3億88万円
・再エネ・省エネ設備の導入経費補助	3,080万円
○産業振興	29億5,741万円
・福山北産業団地の第2期分譲予定地の造成	445万円
・デニム事業の調査・分析	322万円
○教育	200万円
・部活動の地域移行推進	322万円
・学校バラ花壇整備	200万円



して子育て支援に12億2千万円を計上しています。子育て支援策は「中学3年までが対象の医療費助成の所得制限の撤廃」「保育士の復職支援・資格取得支援」「子ども発達支援センターにオンライン診療導入」「放課後児童クラブの閉館時間の延長(5か所)」などを加え、更なる強化を図っています。

旧商業ビル「キャスパ」の再開発の事業費補助など40億7千万円です。

市債発行額は、31億6千万円。年度末残高は、約1687億円です。

歳入の根幹をなす市税は1.9%増。給与所得増による個人市民税の増と、企業収益の増による法人市民税の増収です。また、財政調整基金から8億7千万円を取り崩し財源調整を行った結果基金残高は約15.9億円を見込んでいます。市債発行額は、ゴミ処理施設に充てる前倒し分も含め31.1億6千万円で、年度末残高は約1687億円で過去最大となる見込みです。

一般会計の賛成討論要旨

令和5年度予算は、都市基盤づくりと人口減少社会の強化を柱とし、予算総額は、過去最大だった昨年にくらべて規模の184.1億円です。財政状況は、社会保障関係費など、義務的経費が増加する中、経常収支比率、公債費比率など概ね一定の水準を確保した数値を示しており、引き続き行財政改革をはじめ減債基金等を活用した計画的な財政運営等を求め本予算に賛成しました。



木村素子議員

水曜会 一般質問



連石武則議員

水曜会 代表質問



日産サニートラック

日本一長寿な車であり、かつては電気屋やガソリンスタンドで商用車として大活躍した。またスポーツタイプのサニーGX5との部品互換性も高く、少しの改造で見違えるように速くなる。

旧車ブーム

昭和年代のスポーツカーの値上がりが著しい。例えばトヨタのAE86型など2〜300万円する。日産のL型のフェアレディZなど1千万円を超える。マンガの影響や、若い頃に乗りたかったシニア世代の需要など諸説ある。古い車を大切にすること自体悪くないが、中古車業界でも異常な価格高騰と言われている。じつは私も1993年式のサニートラック最終型に乗っている。トラックとはいえず2シーターでFR、日産の名機A型エンジン(1200cc)は非力ながらも軽い車体ゆえに軽快な走り、羊の皮を被ったスポーツカーだと自画自賛していた。元々は農作業用として12年前に購入し、ぶどうの肥料や資材の運搬に使っていた。しかし、このサニートラさえも昭和のレトロな雰囲気ゆえか値上がりしている。サニートラは1971年から37年間も同じ型で生産された

経済リポート R4年12月1日号掲載
「祐介の目」

私のサニートラは錆がひどく4年前に三吉鋳金にてフェアレディ432Zと同じオレージに全塗装してもらったところ注目度抜群となり、多くの方から「懐かしい」「昔乗っていた」と声をかけられる。さて旧車は当然故障しやす。私は「NHKプロフェッショナル仕事の流儀」にも出演した小山自動車にお世話になっている。かつてA型でレースにも参戦していた小山さんにより、サニーGXヘッドランプレックスキャブレターというライトチューンで本物のスポーツカーに変身した。足回りも懐かしのマグホイールとモンローショックを組み合わせて、希少なニスモLSDや5速ミッションにより走る楽しさは倍増している。結局、旧車の魅力は自分好みの車に仕上げる喜びにあると思う。現代の車は優等生で故障もなく何か部品交換をする必要も無いが、旧車には様々な課題を解決して維持する楽しめと苦労がある。



ホンダ・ハンターカブ

バイクブーム

空前のバイクブームと言われた80年代、私も16歳でバイクにはまり、以降38年間スーパークラブによる新聞配達から始まり1000ccまで十数台乗り継いできた。これまで大きな事故にも遭わず、バイクライフを楽しめたことは本当に幸せだった。十代で北海道を一周したり、鈴鹿8時間耐久レースを観戦したり、バイクのお陰で行動範囲が広がりが忘れられない思い出を多く作ることができた。

最近、またブームが到来したと言われている。コロナが拡大する中、3密を避ける移動手段としてバイクの利用者が拡大し、ツーリングやソロキャンプ指向が増えたそう。また、高速道路で軽自動車と同じ料金を払っていたバイクに「ETC二輪車定率割引」が導入された。これは自民党二輪車問題対策プロジェクトチーム座長の三原じゅん子参院議員の功績が大きい。

経済リポート R5年1月1日号掲載
「祐介の目」

バイク川暴走族というイメージも過去のものとなり、高校生に対してバイクの免許を取らない・乗らない・買わないをスローガンとする「3ない運動」も埼玉県は廃止した。保護者の同意を得た上で学校に申請をした生徒に対して、埼玉県は免許取得およびバイクに乗ることを承認し、安全運転教育を実施している。バイクに乗って間もない高校生の視点に立ち、様々なことを体験してもらおう入念に練られたプログラム内容だ。

また、原付は50cc以下という制限も125ccに見直す機運がある。国産バイクメーカーも海外では125ccの生産が主流であるし、幹線道路を50ccという低排気量で一般車両と並走するのは危険だ。軽自動車や原付というガラパゴス化した基準の見直しにも政治力が必要だろう。私も現在125ccのハンターカブに乗っているが、車の流れに乗っても燃費はリッター60kmだし、荷物の積載量は大きいし、高速道路に乗りたくない以外は何の不満も無い。人間一人の移動手段として最も環境に優しい乗り物が125ccではないかと思う。皆様もチャレンジしていただきたい。



薩摩川内鰻

経済リポート R5年7月1日号掲載
「祐介の目」

私は小学生の頃に水槽で鰻の稚魚を飼っていたが、なかなか愛らしくペット向きだった。同じ頃に芦田川で鰻が黄色い大物の天然鰻が腹の差し出した網をすり抜けたことは悔しくて忘れられない。

その後、河口堰が完成し鰻の稚魚(シラス)は川を遡上できなくなった。そこで小林市議が組合長を務める芦田川漁協が河口堰の外でシラスを採取し、養鰻場で20cm程度まで育て、そのすべてを資源保護のために光小学校の児童により芦田川に放流されている。今や鰻は絶滅危惧種に指定され、水産庁により全国でシラスの漁獲制限が行われている。トレーサビリティが徹底され、かつての密漁や密輸による出所不明のシラスは流通できなくなっている。

先日、福山市に本社のある備後漬物の関連会社「薩摩川内鰻」に市議会・水曜会の本部長で視察に行ってきた。

川内川の流れる鹿児島県は日本一の鰻の産地であり、同社はシラス採取から養殖と加工まで一貫して取り組み、全国2位の規模だそう。良質な環境が良質な鰻を育てる「モットー」に、養鰻場では独自の方法に取り組みからくみ上げた良質な地下水は徹底した水質管理により鰻の病気を予防している。また独自の配合飼料を与えて人工水流を作った運動させて筋肉質にし、水温と水中酸素濃度も高めて成長促進を図っていた。ここに中国産鰻との差があると言える。

わずか半年で250gに成長した鰻は衛生的な加工場において捌かれ、備長炭と同等の火加減で焼き、320℃の加熱水蒸気で蒸し、マイナスイオンで急速冷凍して味を封じ込めて真空パックして全国に出荷されている。限られた資源を最大限有効に育み、皆さんの食卓に上るよう努力されている様子が理解できた。

私達は土用の丑の日や特別な日のご褒美として鰻が食べられる。年々価格は上昇傾向であり、日本人の食文化と資源保護の両立という難しい問題に直面している。薩摩川内鰻に頑張ってもらいたい。



山野映の急流で川遊び

水路転落事故

私は岡山市の児島湾干拓地の農家に生まれたが、周囲は一面水田であり水路が縦横に張り巡らされていた。3歳の頃に家の前の水路に転げ落ちたところを父に引きずり上げられた記憶がある。

昨年11月に4歳児が緑町公園南側の「三間川」に転落して死亡した。16年前にも6歳児が転落して死亡していることを受け、福山市は有識者による水路転落事故防止対策検討会が立ち上げた。私も地元町内会代表としてオブザーバー参加している。この水路昔は三間(約5・4m)の幅があり底が見えるくらい浅かったが、約30年前に水路脇の道路を拡張し、幅を2mに狭め流量を確保するために水深を深くした。子供が転落した場所には水門があり、ゴミを回収するために柵が無く水深も1・4mあった。検討会では、水路に近寄れないようにフェンスで囲つ、

経済リポート R5年3月1日号掲載
「祐介の目」

水深を下げる、落ちた時に這い上がるように手摺を設置する、子供に危険なことを周知(教育)する等、様々な意見が出た。この水路には魚が多く、子供が興味を持つのは当然だが、昔のように釣りや魚取りをするような子供はいないし、近所の大人による監視の目も少ない。最近の子供の自然体験は減少の一途であり、危険予知能力やいざという時の対処能力を身に付ける教育が必要だ。そのための公園管理人の常駐を提案したい。あれはダメこれもダメという管理人ではなく、子供に遊びを教えるブレイリダーが必要だ。私は東京都世田谷区にある羽根木プレーパーク(冒険遊び場)に行ったことがあるが、自分の責任で遊ぶことを前提にした自由な遊びができる。泥遊び、ロープクライミング、焚火、ナイフで工作、落葉アールなど都会ではなかなかできないような遊びを通じて、子供の自主性や冒険心を育てていた。今回の事故を教訓として緑町公園をプレーパークに衣替えし、子供たちの生きる力を育む場所にするのが、亡くなった子供たちに対する何よりの供養と今後の事故対策になるのではないか。



宮本武蔵の腰掛石

二刀流のススめ

二刀流の元祖と言えば宮本武蔵、かつて大坂夏の陣で水野勝成に仕えた武蔵は、島原の乱に向かう途中に福山城に寄り勝成に挨拶したと言った。その際に腰掛けた石が「武蔵腰掛石」として備後護国神社に保存されている。二刀流と二足の草鞋は似ているが、後者は「博打打ちと岡つ引き」のように相反する二つの職業をやる例で、前者は双方向分野での活躍を意味するそう。

とここで私の母・大田祥子も二刀流だった。医師として登山家として両方とも完璧にこなしていた。しかも旧姓は「大谷祥子」であり、今を時めく大谷翔平と同姓であり縁を感じる。登山を始めたのは40歳頃からで、当時から将来はエベレストに登りたいと言っていた。家族の誰も本気にしていなかったが、その後の努力と鍛錬により63歳で日本人女性としては6人目の登頂に成功した。

経済リポート R5年6月1日号掲載
「祐介の目」

大谷選手も二刀流に挑戦した当初は並みいる評論家から「絶対無理」と酷評されていた。今の活躍を見ての感想を聞いてみたい。プロのスカウトに言わせれば野球の遺伝子は母方の祖父から来るそう。大谷選手の祖父もエースで4番だった。実は私の祖父・大谷熊夫は農業指導員であり、私にも農業遺伝子が来ているのだろう。私は13年前に山野町の耕作放棄地にぶどうの苗木を植え、8年前に福山で最初のワイナリーを開業した。その際に備後護国神社に参拝して静かに武蔵腰掛石に座り瞑想した覚えがある。二刀流の兼業議員になって農業や経済活動の苦労を身をもって体験できた。この3年間はコロナ禍も十分に味わった。この体験は議会活動にも大いに役立っていると感じている。ワインの評価も年々高まり、なんとG7サミットで富士の夢(赤)と北天の雫(白)が提供された。皆様も二刀流「半農半X」に挑戦してはいかがだろう。このままでは日本の農業は近い将来壊滅するが、皆様の二刀流でなんとか喰い止めていた国神社に参拝し、武蔵腰掛石に座ることをお勧めする。



福塩線ワイン列車

経済リポート R5年7月1日号掲載
「祐介の目」

乗り鉄のススめ

全国の赤字ローカル鉄道が存続の危機にある。私が若い頃、夜行列車は登山の必需品だった。福山駅21時30分発の「あさかせ」に乗り、5時に富士駅着、タクシーで富士山5合目へ向かう。スキーを背負い昼頃登山、大滑降の後にまた富士駅から「サンライズ瀬戸」に乗り、翌朝6時に岡山着。福山から一人33時間で富士山往復は夜行列車の存在抜きには実現できない。

大阪発の「きたぐに」も懐かしい。仕事が終わって新大阪23時発に乗れば5時に富山着、富山地鉄黒部アルペンルート経由で9時には標高2300mの室堂に着いた。驚くほど時間の有効利用が可能な夜行列車、今こそ見直され復活させるべきだろう。私が早朝に山野峡大田ワイナリー向かう際、反対方向は芦田川右岸・左岸共に毎朝大渋滞である。なぜもって福塩線が活用されないのか不思議

に感じる。来年には北産業団地が稼働するが、多くの雇用が生まれ通勤車両が激増するだろう。福塩線の駅家駅から北産業団地まで各社共同運行のシャトルバスを走らせるレール&バスライドを提案したい。路線も単純なので自動運転バスも可能かもしれない。また、年に一回、福塩線ワイン列車の旅がある。山野峡ワイン、せらワイン、三次ワインの3種類を飲みながら、私達ワイナリストスタッフの解説に耳を傾け車窓の田園風景を眺めれば三次までの片道約2時間はあつと云う間。この飲みながらの旅は鉄道ならではの特典だ。昔は懐かしい食堂車や車窓越しの駅弁の販売、駅前には必ずその地方の名物料理店があった。ワイン列車も回数を増やして福塩線再生の切り札としたものだ。コロナ禍において大阪〜下関間を特急「銀河」が走った乗客は少なかつたが物産協会の中心に駅舎内で様々なおもてなしを行い、私も銀河のヘッドマークをあしらった銀河ワインを限定販売した。皆様も積極的な鉄道利用により路線の維持にご協力いただきたい。いつか銀河鉄道999にも乗れるかもしれない。